

文化社会学科の人材育成に関する目的と3つのポリシー 【学士（社会学）】

学部の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）	学科の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）
現代社会に生きる人間を理解し、よりよく生きるために、人間とその環境の多様性・複雑性を科学的・総合的に探求し、社会に生きる人間に関わる現実的な諸課題・諸問題に実践的に関わり、解決していく人材を育成する。	身近な現代文化に関する興味や関心を起点として、社会現象や社会問題を、幅広い視野で物事を多面的にとらえる社会学の技法を用いて分析し、自分の考えとして社会に向けて示すことができる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
DP1 知識・理解	(1)	文化と社会に関する幅広い教養と専門知識を獲得し、現代における人と人との結びつきを明らかにできる。	<p>文化社会学科では、身の回りで起こっているさまざまな社会現象に対して、自ら動いて情報を集め、集めた情報をもとに自分で答えを出し、その答えを人に向けて的確に伝えることのできる人材を育成します。これらの諸能力は、実社会のどんな仕事や場面でも必要とされるものです。このような本学科の教育目標に基づいて、以下のような学生を求めます。</p> <p>1. 関心・意欲・態度 さまざまな現代文化・社会現象・社会問題に関心を持つ、好奇心旺盛な人 社会に氾濫する情報の真偽を自分の目で確かめ、周囲の意見に流されない自分の考えを持ちたいと思う人 インタビューやアンケートなどの「取材」（社会調査）の手法に関心がある人</p> <p>2. 知識・教養 社会学の諸分野を学ぶにあたり、必要な基礎学力※を習得した人 ※高等学校までに履修した主要教科（国語、英語、社会、数学、理科）の基礎的な知識</p> <p>3. 思考力・判断力・表現力 ひとつの対象をさまざまな角度から事実（データ）をもとに考察することができる人 知識・教養を基盤として適切な判断のできる人 自分の意見やアイデアを的確な方法で表現することができる人</p> <p>4. 協調性・主体性 人と協力して、集団的な活動ができる人 自ら考えて動くことができる人</p>
	(2)	身近な現代文化が自分たちにどのような影響を与えているのか、あるいは、社会のしくみとどのように関わっているのかを理解できる。	
DP2 汎用的技能	(1)	社会現象や社会問題に対する自らの関心を掘り下げて問題を設定し、社会学の概念を活用して、論理的に分析することができる。	
	(2)	自分の考え方を相手に伝えるように表現し、相手の考え方も受け止めることができる。	
	(3)	フィールドワークや社会調査など社会学の技法を用いて社会現象や社会問題に関する情報を収集することができる。	
	(4)	統計的なデータ分析・プレゼンテーション・情報発信などを適切に行うことができる。	
DP3 態度・志向性	(1)	常に変化する現代社会において、さまざまな社会現象や社会問題に関心を向ける態度を身につけている。	
	(2)	統計の数値・図表・解釈方法などをうのみにせず、根拠を重視して論理的に吟味する批判的思考の態度を身につけている。	
	(3)	自分を見失わず、他者の考えを理解しつつ、多面的な解釈を行う態度を身につけている。	
DP4 統合的な学習経験 と創造的な思考力	(1)	社会学の知識と社会生活の現場に関する多様な経験を総合し、常識にとらわれず、社会現象や社会問題に対する自分なりの考え方を論理的に構築することができる。	
	(2)	自分なりの考えを責任をもって他者に表現し、積極的に発信することができる。	